

2 半促成イチゴの株作り、芽仕立

岩手園試南部分場

1 特徴と背景

イチゴの株作り、芽仕立は直接的に花房数、花数に影響するので収量や品種に及ぼすところが大きい。花房に着生する花の数は関東地方で模式的に考えられているものより少ない傾向が見られたり、また栽培農家では果数が多くなると果実が小さくなるという、着果数を20数個でよいとする例や、不良苗、定植遅れなどによる生育不良、弱小株の例も多かった。これらのことから株の生育状態と花房数、株の状態、芽の仕立数と収量、品質などについて2か年に渡り試験を行ってきたので、その結果を参考に供したい。

2 技術内容

(1) 過繁茂の状態下ではイチゴ株の果実負担能力が低く、大株作りで腋芽を多く立てると、大果率が下る傾向が強い。従って収量限界が低度である。

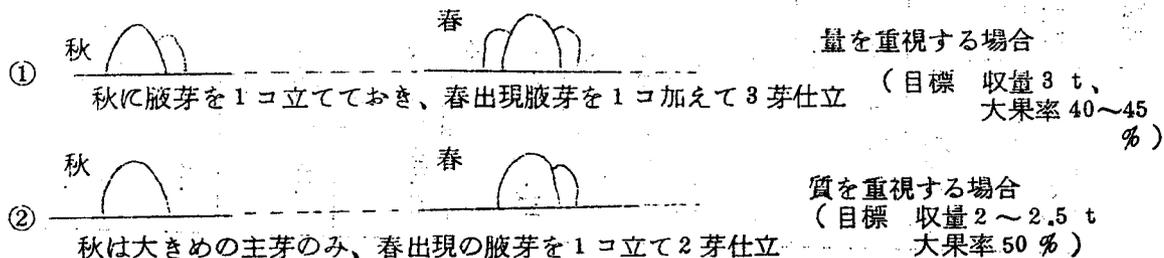
これに対し過繁茂を制御し、適正な草型にした場合には大株作り、多目の腋芽仕立でも大果率が低下せず収量も大巾に上昇する。即ち10a当り収量4t以上、大果率60%前後が可能である。

注 ○ 過繁茂状態とは、例えばハウスビニール被覆も内部保温もほぼ同時期1月下旬の場合、休眠が完全に打破されているので草高が伸び40~50cmにもなる。このように草姿の大きく繁りすぎる状態。
○ 過繁茂制御した場合とは、例えばハウスビニールを12月上、中旬被覆、内部保温を1月10日前後にする4~5月どり、ハウスビニールを11月下旬被覆(内部保温を1月下旬に行う5月どり等、ハウスビニールの早期被覆の方法によるなど草高を20~25cm位に制御した状態。)

(2) 過繁茂状態下での株作り、芽仕立

ア 11月末~12月上旬頃、クラウンの直径2.50cm前後、定植後発生する新葉数4~4.5枚、前後の株作りとする。

イ 芽仕立



(3) 過繁茂を制御した条件下の株作り芽仕方

ア 株作り 11月末～12月上旬頃、クラウンの直径2.40～2.70 cm位、定植後発生新葉数4～5枚、葉身長6.8～7.5 cm前後の大株作りとする。

イ 芽仕立

① 秋のうちに腋芽を1～2コ立て秋2～3芽仕立
 (目標 収量4 t以上 大果率58～60%)
 量、質両面重視

② 秋腋芽の立つ位の大株を作り、秋その腋芽をとり大主芽1芽仕立
 (目標 収量3.5～4 t 大果率60～70%)
 質を特に重視する場合 (大主芽であれば収量もかなり高水準)

(4) 株作り、芽仕立を可能にし、品質と収量確保のため苗の大小に対応する定植時期は次のとおりとする。目標とする株作り、芽仕立を可能にする範囲内でそれぞれの苗を定植する。

苗の大きさ、定植時期	適応性		苗の大きさ、定植時期	適応性		苗の大きさ、定植時期	適応性	
	A	B		A	B		A	B
大苗 32g 9月10日	◎	○	中苗 20g 9月10日	◎	○	小苗 11g 9月10日	◎	◎
" 41g 9.20	◎	◎	" 27g 9.20	◎	◎	" 20g 9.20	◎	◎
" 48g 9.30	◎	◎	" 30g 9.30	◎	◎	" 28g 9.30	○	○
" 53g 10.10	◎	◎	" 40g 10.10	○	○			

秋に腋芽が立ってきたら質、量の目標に応じ芽仕立する。

(注 Aは過繁茂制御を行った場合、Bは過繁茂状態の場合)

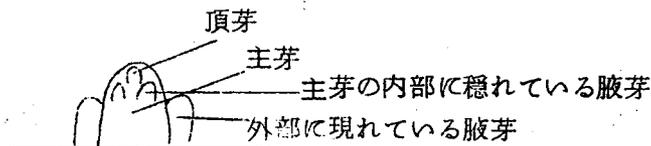
(5) 目標とする苗を得るための仮植時期の苗の大きさとその後の苗の生育は次のとおりである。

時期 仮植(8月25日)時	9月10日	9月20日	9月30日	10月10日	定植時の苗の分類
10～11g苗	32g	41g	48g	53g	大苗
5～6g苗	20	27	33	40	中苗
3～4g苗	11	20	28		小苗

(注 これは順調に生育させた場合である)

3 指導上の留意点

- (1) 50年秋の気温は平年より高目であったので平年の場合、定植期を多少早める(2~3日位)
- (2) 仮植は寒冷紗を用い、散水を充分行い順調に生育させること。条件により順調に生育させ得ないおそれのある場合は、8月中旬より仮植を始めた方が安全である。
- (3) 定植ほ場は堆肥等を充分施し、地力を増進し、肥料濃度も適度とし、定植後の生育を順調にする。
- (4) 株作り、芽仕立後「冬枯れ」を起してはせっかくの株作りも意味がないのでハウスビニールの早期被覆による冬枯防止を行うとよい。
- (5) 過繁茂を制御、適正草姿を作出すると、株作り、芽仕立の効果が大きく現れるのでハウスビニールの早期被覆による過繁茂制御技術を組み合わせるとよい。
- (6) 芽数の数え方は、秋の場合外部に現れている主芽と腋芽で表現している。表の場合も萌芽、展葉期の主芽と主芽の外部に現れた腋芽数で表現している。主芽の内部に隠れているものは数えていない。



- (7) 腋芽を除去する場合は摘みとれる位になったら早目に除去する。
- (8) この技術内容は、品種はダナー種で、株数8,000株(10a当)前後の場合とする。

4 試験成績の概要

1) 試験課題名

- ア 半促成イチゴの芽の仕立方試験
- イ 半促成イチゴの定植時期と主芽の素質に関する試験
- ウ 半促成イチゴの定植時期と苗の大小に関する試験

2) 試験年次および場所

昭和50年~51年 岩手園試南部分場

3) 試験方法

ア 半促成イチゴの芽の仕立方試験

昭和50年度 ① 秋主芽1芽とし春2芽、3芽、4芽、放任の4区

品種ダナー、苗重9月20日時10本重310g、10a当株数8,110

株、外部被覆1月8日、内部保温1月31日、蜜蜂使用

② 大苗、中苗区に秋の芽、1芽、2芽放任の3区組合、春は放任

品種ダナー、苗重大苗区10本重560g、中苗区10本重250g
10a当株数8,110株、外部被覆1月8日、内部保温1月31日、密
蜂使用

昭和51年度 ① 秋1芽、2芽、3芽、放任の4区、春は放任

品種ダナー、苗重10本重310g、10a当り株数8,230株、外部
被覆12月20日、内部保温1月10日で過繁茂制御下、密蜂使用

イ 半促成イチゴの定植時期と主芽の素質に関する試験

昭和50年度 ① 定植時期9月10日、9月20日、9月30日、10月10日、10
月20日、10月30日とし、秋主芽1芽仕立、大苗9月20日時点
で、10本重500g使用

品種ダナー、10a当り株数8,110株、外部被覆1月8日、内部保温
1月31日

ウ 半促成イチゴの定植時期と苗の大小に関する試験

昭和51年度 ① 苗を大、中、小と分類、9月10日、9月20日、9月30日、10
月10日、それぞれ定植

品種ダナー、10a当り株数8,230株、外部被覆12月10日、内
部保温1月10日

4) 試験結果

ア 半促成イチゴの芽の仕立方試験(昭和50年度)

○秋に腋芽を除去し主芽1芽とした場合、春の腋芽は3コ位発生した。収量は3芽仕立(主
芽+腋芽2)と4芽仕立(主芽+腋芽3)が良く、大果率、良果率は2芽仕立(主芽+腋
芽1)が優れた。

○秋の腋芽仕立

大苗で大株仕立の各区は秋の腋芽の発生も春の腋芽の発生も多く、収量が高かったが大果
率が中苗各区よりもかなり低かった。また中苗、秋1芽区は春の腋芽の発生が少く収量が
低かったが大果率が高かった。

イ 半促成イチゴの芽の仕立方試験(昭和51年度)

○秋に腋芽を立てた場合、春の萌芽展葉期の腋芽数は秋に出現した腋芽個数をあまり越えな
いことが認められた。

○収量は秋3芽区(主芽+腋芽2) > 秋2芽(主芽+腋芽1) > 秋放任区 > 秋1芽区の順で
あり、大果率、良果率は秋1芽区 > 秋2芽区 > 秋3芽区 > 秋放任区の順であった。

○前年の過繁茂状態の場合に比較して、全区とも収量、品質の向上が著るしく、前年試験のような大苗、大株作りでの品質低下が見られなかった。

ウ 半促成イチゴの定植時期と主芽の素質に関する試験（昭和50年度）

○定植時期が早いほど秋の草量が大きくなり秋の腋芽発生が多い。この秋の腋芽を摘みとって、主芽1芽とした場合も定植時期によって主芽の能力に差ができ、遅植のイチゴの主芽は能力が低く春の腋芽発生が少なかった。

○定植時期では、大苗使用9月10日植は秋の腋芽をつみとって大果率が低い結果を示した。定植時期は質量、両面からみて9月20日、9月30日2区で良かった。

エ 半促成イチゴの定植時期と苗の大小に関する試験（昭和51年度）

○越冬前の株の大きさ（クラウンの直径、新生葉数等）はどの区分の苗でも定植時期が遅れるほど小さくなる傾向を示し、どの定植時点でも大苗>中苗>小苗の傾向を示している。

○秋発生腋芽数は9月10日と9月20日定植区は多く、9月30日と10月10日区は少なかった。また小苗区の腋芽は小さいことが観察された。

○花房数はどの区分の苗でも9月10日>9月20日>9月30日>10月10日植の順であり、またどの定植時点でも大苗>中苗>小苗の順であった。

○草高はどの区も大差がなく20~24cmの範囲内であった。

○収量はどの定植時点でも大苗>中苗>小苗の順であること、またどの区分の苗でもほぼ9月10日>9月20日>9月30日>10月10日植区の順の傾向がみられた。

○品質では大果率、良果率ともどの区分の苗でも9月30日>10月10日>9月20日>9月10日植の順であった。

以上からイチゴの株作りには小苗より中苗、中苗より大苗が有利であり、定植時期が早いほど有利であること。そしてこの傾向は収量の傾向と一致していることが認められた。

さらに定植適期は大苗ほど広く、小苗ほど狭いことが認められる。

全体的に昨年度の過繁茂条件下の試験に比較して収量、品質の向上が著るしく前年のように9月10日植大苗、大株作りの区でも品質低下はみられなかった。

5 主要成果の具体的データ

ア 半促成イチゴの芽の仕立方試験（昭和50年度）

①春の芽の仕立方（秋は主芽1芽） 生育

調査日 区別	11月26日			2月26日	4月3日			花房数 (1株当)	着花数 (1株当)	開花始
	クラウン の直径	新生 葉数	左の最大葉 葉身長×葉巾	春の腋芽 仕立数	草高	葉柄長	最大葉 葉身長×葉巾			
2芽仕立	cm 2.61	枚 4.6	cm cm 7.8 × 6.3	コ 1.0	cm 32.5	cm 25.1	cm cm 12.2 × 10.9	4.0	37.2	3/10
3 "	2.63	4.7	7.6 × 6.4	2.0	30.3	23.9	11.4 × 10.4	4.5	38.9	3/12
4 "	2.62	4.7	7.8 × 6.3	2.9	33.5	25.8	12.0 × 11.2	4.6	40.7	3/10
放任	2.69	4.6	8.1 × 6.6	3.1	33.1	25.0	11.9 × 10.8	4.7	41.0	3/12

収量、品質

項目 区別	販売可能果 (区当 2.7 m ²)							屑果 (区当)	果実 総計 (区当)	販売可能果			
	L	M	S	S.S	A	B	計			平均 果重	大果 率	良果 率	10a当 換算 収量
2芽仕立	コ 49 g 952	106	161	175	26	40	557	104	661	g 11.7	% 47.4	% 92.7	kg 2,409 (100)
3 "	コ 47 g 1,000	93	203	209	32	33	617	160	777	11.6	44.3	90.5	2,639 (110)
4 "	コ 51 g 982	102	187	222	29	58	649	161	810	11.0	42.6	90.4	2,620 (109)
放任	コ 37 g 781	105	197	193	32	41	605	144	749	11.4	43.9	91.0	2,544 (106)

② 秋の芽の仕立方（春は放任） 生育

調査日 区別	項目	11月26日				2月26日	4月3日			花房数 (1株当)	着花数 (1株当)	花房当 花数
		クラウン の直径	新生 葉数	左の最大葉 葉身長×葉巾	秋の 腋芽	春の 腋芽	草高	葉柄長	最大葉 葉身長×葉巾			
1芽	大苗	cm 2.33	枚 4.9	cm cm 8.6 × 7.0	コ 0	コ 1.9	cm 31.1	cm 24.6	cm cm 11.3 × 10.8	本 4.5	コ 39.6	コ 8.8
2芽	"	2.75	4.9	8.8 × 6.9	1.0	2.6	33.4	27.0	11.4 × 10.4	5.0	47.0	9.4
放任	"	2.74	4.8	8.4 × 6.6	2.5	3.2	33.6	26.6	11.1 × 10.1	5.0	41.9	8.4
1芽	中苗	2.53	4.3	7.6 × 6.2	0	1.1	32.6	22.8	11.7 × 10.8	3.6	30.4	8.4
2芽	"	2.54	4.5	7.4 × 5.0	0.7	1.6	29.5	23.2	11.7 × 10.3	4.3	36.6	8.5
放任	"	2.55	4.5	7.8 × 6.8	1.4	2.3	31.5	25.3	11.8 × 11.4	4.7	38.4	8.2

収量、品質

區別	項目		販売可能果 (区当 2.7 m ²)						屑果 (区当)	果実 総計 (区当)	販売可能果		良 果 率 %	販売可能果 10a当 換算収量 kg
			L 以上	M	S	SS	A	B			計	平均 果重		
1 芽 大 苗	個数	コ 37 9	98	210	227	26	40	638	148	786	%	%	%	2,546 (113)
	重量	689	1,444	2,174	1,558	553	489	6,907	666	7,573	10.8	38.9	91.2	
2 " "	個数	33	91	197	250	27	43	641	184	825	%	%	%	2,451 (109)
	重量	647	1,337	1,960	1,695	517	492	6,548	816	7,464	10.4	37.6	89.1	
放任 "	個数	43	101	211	250	25	40	670	192	862	%	%	%	2,627 (117)
	重量	895	1,423	2,167	1,686	514	442	7,127	378	8,005	10.6	39.7	89.0	
1 芽 中 苗	個数	56	100	156	148	25	20	505	82	587	%	%	%	2,246 (100)
	重量	1,174	1,472	1,600	1,027	597	225	6,095	384	6,479	12.1	53.2	93.4	
2 " "	個数	43	104	182	179	30	31	569	135	704	%	%	%	2,422 (108)
	重量	871	1,556	1,853	1,232	695	363	6,570	618	7,188	11.5	47.5	91.4	
放任 "	個数	47	99	188	199	35	27	595	120	715	%	%	%	2,451 (109)
	重量	936	1,440	1,879	1,339	751	300	6,649	521	7,170	11.2	47.1	92.7	

1 半促成イチゴの芽の仕立方試験(昭和51年度)

①生育

區別	項目	調査月日		11月26日				春の		5月4日			第1次 発生 花房
		クラウ ン直径	新生 葉数	左の最大葉 葉身長×葉巾		秋の 腋芽	腋芽 数	第1次葉					
		cm	cm	cm	cm	コ	コ	草高 cm	葉柄長 cm	葉身長×葉巾 cm cm			
秋1芽(主芽のみ)		2.62	4.7	7.2	6.1	0	0.6	25.7	21.8	9.5×9.0		4.9	
秋2芽(主芽+腋芽1)		2.61	4.7	7.6	6.4	1.0	1.1	25.8	21.6	10.0×9.5		5.5	
秋3芽(主芽+腋芽2)		2.92	5.0	7.7	6.4	2.0	1.9	25.9	22.1	9.5×9.0		6.2	
秋放任		2.82	5.0	7.7	6.5	2.3	2.9	24.9	21.8	9.6×8.7		5.8	
越冬後1芽(参考)		—	—	—	—	0	1.4	22.5	18.8	9.5×8.9		5.5	
越冬後3芽(参考)		—	—	—	—	2	2.0	24.5	20.7	9.2×8.4		6.2	

② 収量、品質（5月末日まで）

区別	項目	販売可能果（区当 22 株）							屑果	総計	販売可能果			
		L 以上	M	S	SS	A	B	計			大果 率	良果 率	平均 果重	10当換 算収量
秋1芽 (主芽のみ)	個数	100 ^コ	168	212	165	58	29	732	120	852	%	%	%	kg
	重量	2,172	2,479	2,343	1,300	1,422	356	10,072	658	10,730				
秋2芽(主芽 +腋芽1)	個数	102	173	236	166	63	31	771	142	913	%	%	%	kg
	重量	2,193	2,504	2,540	1,292	1,429	387	10,345	771	11,116				
秋3芽(主 芽+腋芽2)	個数	88	182	230	199	76	54	829	166	995	%	%	%	kg
	重量	1,797	2,504	2,408	1,529	1,865	709	10,983	909	11,892				
秋放任	個数	87	158	233	203	64	41	786	228	1,014	%	%	%	kg
	重量	1,794	2,334	2,447	1,634	1,518	536	10,263	1,214	11,477				
1芽(参考) 越冬後	個数	98	163	208	160	58	31	718	164	882	%	%	%	kg
	重量	2,078	2,378	2,166	1,253	1,405	422	9,702	909	10,611				
3芽(参考) 越冬後	個数	107	160	237	187	67	44	802	140	942	%	%	%	kg
	重量	2,257	2,370	2,487	1,435	1,467	566	10,582	782	11,364				

(参考) 半促成イチゴの定植後の生育量と収量 (昭和47年大船渡普及所、住田町農協)

収量階層 (100当)	根冠直径	新葉枚数	新葉長径	平均定植月日	平均収量	戸数
1,000 kg以下	1.24	2.4	4.8	10月9日	883	3
1,000~1,300 未満	1.24	2.8	5.4	10.2	1,211	3
1,300~1,500 "	2.35	4.9	6.2	9.20	1,428	4
1,300~1,500 "	1.69	2.7	5.7	9.30	1,377	3
1,500~1,700 "	1.71	3.9	6.8	9.26	1,599	12
1,700~2,000 "	1.75	4.3	6.4	9.20	1,799	8
2,000 以上	1.91	5.2	7.7	9.16	2,217	6

ウ 半促成イチゴの定植時期と主芽の素質に関する試験 (昭和50年度)

① 生育

調査日 項目 区別	11月26日		2月26日			4月3日			花房数 (1株当)	着花数 (1株当)	開 花 始 月日
	クラウン の直径	新生 葉数	左の最大葉 葉身長×葉巾	紅葉の 程	春の 腋芽数	草高	葉柄数	最大葉 葉身長×葉巾			
9月10日植	cm	枚	cm cm	無	コ	cm	cm	cm cm	本	コ	月日
9月10日植	2.66	4.7	8.4 × 7.1		2.1	31.9	22.8	12.4 × 10.6	3.6	40.5	3/11
9月20日"	2.55	4.1	7.8 × 6.5	小	1.9	31.3	24.3	12.0 × 10.4	3.9	34.4	3/10
9月30日"	2.37	3.7	7.9 × 6.3	小	1.9	33.5	25.4	11.8 × 10.8	4.3	38.4	3/12
10月10日"	2.53	2.9	7.2 × 5.6	多	1.2	32.6	25.2	11.8 × 11.1	3.2	30.1	3/12
10月20日"	2.32	2.4	6.7 × 5.2	新生葉除	0.5	31.3	23.8	11.2 × 10.6	2.5	23.0	3/13
10月30日"	2.43	2.2	6.8 × 5.2	紅葉	0.2	30.7	22.6	11.1 × 9.7	2.9	24.4	3/13

②収量、品質

区別	項目	販売可能果 (区当 2.7 m ²)						層果 (区当)	果実 総計 (区当)	販売可能果		良果 率	販売可能果 10a当換 算収量	
		L 以上	M	S	SS	A	B			計	g			%
9月10日植	個数	45	84	204	222	33	70	658	201	859	g	%	%	2,600kg
	果重	866	1,217	2,040	1,502	662	767	7,054	906	7,960	10.7	38.9	88.6	(95)
9月20日"	個数	57	106	201	188	33	50	635	119	754				2,726
	果重	1,161	1,509	2,049	1,359	754	565	7,397	579	7,976	11.6	46.3	92.7	(100)
9月30日"	個数	63	104	205	197	21	40	630	106	736				2,615
	果重	1,311	1,494	2,072	1,332	439	445	7,093	512	7,605	11.3	45.3	93.3	(96)
10月10日"	個数	55	100	176	180	13	34	558	75	633				2,347
	果重	1,131	1,452	1,856	1,275	296	355	6,365	370	6,735	11.4	45.3	94.5	(86)
10月20日"	個数	37	88	157	128	11	13	439	62	501				1,827
	果重	801	1,248	1,607	894	217	188	4,955	309	5,264	11.3	45.7	94.0	(67)
10月30日"	個数	52	82	159	141	7	44	485	69	554				2,049
	果重	1,108	1,190	1,643	997	164	458	5,560	366	5,926	11.5	44.3	93.8	(75)

エ 半促成イチゴの定植時期と苗の大きさに関する試験 (昭和51年度)

①生育

区別	調査日 項目	11月26日				春の 腋芽 数	5月4日			第1次 発生 花房 本
		ク라운 の直径	新生 葉数	左の最大葉 葉身長×葉巾	秋発生 腋芽数		第1次葉			
							草高	葉柄長	葉身長×葉巾	
9.10植	大苗 32株	2.74	5.6	8.7 × 7.3	2.8	2.3	21.5	17.4	9.0 × 8.0	8.3
9.20"	" 41	2.68	4.7	7.5 × 6.4	1.9	2.0	20.2	17.0	9.1 × 8.1	7.9
9.30"	" 48	2.50	4.4	7.5 × 6.2	0.9	1.2	19.4	15.8	9.1 × 8.6	6.3
10.10"	" 53	2.39	4.1	6.9 × 5.9	1.1	1.8	19.8	16.2	9.4 × 8.4	6.1
9.10"	中苗 20株	2.76	5.7	8.0 × 7.2	3.3	2.7	21.6	18.0	8.9 × 7.8	8.1
9.20"	" 27	2.41	4.7	6.6 × 5.7	1.4	2.0	20.7	17.0	10.0 × 8.9	7.1
9.30"	" 33	2.31	4.2	6.8 × 5.9	0.2	0.6	20.6	16.4	9.7 × 9.2	5.7
10.10"	" 40	2.54	3.9	7.0 × 6.1	0.9	1.5	21.1	17.0	9.6 × 8.7	5.8
9.10"	小苗 11株	2.53	5.4	7.7 × 6.8	2.7	2.0	23.4	18.8	9.1 × 8.4	6.5
9.20"	" 20	2.50	4.5	6.7 × 5.5	1.6	1.8	23.7	20.5	9.0 × 8.5	6.3
9.30"	" 28	2.25	3.5	5.5 × 4.8	0.3	1.8	21.0	16.8	9.3 × 8.6	4.8
12.10"	中苗2回 仮植	—	—	—	—	2.0	20.9	16.9	8.9 × 7.9	5.5

② 収量、品質 (5月末日まで集計、6月分は除外)

区別	項目	販売可能果(区当22株)							屑果	総計	販売可能果			
		L以上	M	S	SS	A	B	計			大果率	良果率	平均果重	10a当換算収量
9月10日植	個数	101	204	293	219	74	59	950	184	1,134				
大苗32号	重量	2,165	3,110	3,092	1,487	1,758	773	12385	1,042	13427	56.8	92.2	13.0	4,633
9.20	個数	132	192	271	206	71	41	913	142	1,055				
大苗41号	重量	2,830	2,814	2,846	1,587	1,766	538	12381	787	13168	59.8	94.0	13.6	4,632
9.30	個数	154	195	244	184	52	29	858	90	948				
大苗48号	重量	3,446	2,953	2,525	1,368	1,283	366	11941	539	12480	64.3	95.7	13.9	4,467
10.10	個数	125	196	250	209	61	29	871	123	994				
大苗53号	重量	2,731	2,771	2,626	1,468	1,524	440	11560	673	12233	60.8	94.5	13.3	4,324
9.10	個数	97	207	231	216	68	56	875	260	1,135				
中苗20号	重量	2,111	3,077	2,522	1,703	1,662	758	11833	1,523	13356	57.9	88.6	13.5	4,427
9.20	個数	115	176	230	171	70	43	805	145	950				
中苗27号	重量	2,477	2,616	2,586	1,346	1,555	547	11127	852	11979	59.7	92.9	13.8	4,163
9.30	個数	147	198	209	103	66	17	740	94	834				
中苗33号	重量	3,247	2,939	2,226	801	1,511	233	10957	367	11327	70.2	96.7	14.3	4,099
10.10	個数	126	171	230	180	42	15	764	117	881				
中苗40号	重量	2,744	2,512	2,420	1,478	1,074	192	10420	630	11050	60.7	94.3	13.6	3,898
9.10	個数	110	173	223	165	62	41	774	156	930				
小苗11号	重量	2,389	2,603	2,292	1,258	1,504	532	10578	894	11472	61.4	92.2	13.7	3,957
9.20	個数	119	185	253	166	54	29	806	112	918				
小苗20号	重量	2,528	2,713	2,662	1,351	1,251	376	10881	620	11501	59.7	94.6	13.5	4,070
9.30	個数	139	149	177	128	44	23	660	82	742				
小苗28号	重量	3,031	2,218	1,900	964	1,159	299	9,571	449	10020	67.0	95.5	14.5	3,580
12.10	個数	106	179	219	182	64	41	791	150	941				
中苗2回反植	重量	2,233	2,546	2,313	1,371	1,641	500	10664	815	11479	60.2	92.9	13.5	3,989

